

第26回西日本事例発表オンライン研修会 発表概要シート

法人名	一般財団法人 日本老人福祉財団	施設名	大阪〈ゆうゆうの里〉
発表タイトル	つながるぬりえの会		
研究の目的	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外出行事は一部を除きほとんど中止。施設内で入居者に新たに楽しんでもらえるイベントがないか模索した。 大阪市内の介護福祉士養成校が塗り絵の下絵を公開していると話があったことをきっかけに、塗り絵が入居者にとって新たな楽しみとなれば、と思い研究に取り組んだ。		
発表の概要	塗り絵を通して大阪〈ゆうゆうの里〉の入居者の生活にどのような変化があるのか？		
研究方法	毎月、塗り絵の下絵を複数枚用意し、入居者に自由に塗ってもらう。 作品は施設内の3階食堂横へ掲示し、多くの入居者の目にとまるようにした。 密にならないように2020年6月から個々に自宅で取り組んでもらっていたが、感染予防対策を実施したうえで、2021年4月から毎月「つながるぬりえの会」（ぬりえ教室）を開催、外部講師による塗り絵講座を実施した。 また、インターネット上で外部と連携し、塗り絵イベントを実施。 塗り絵を楽しんでいる入居者13名にアンケートを実施して、これまでの取り組みを評価した。		
成果・結果	アンケートの結果は以下のとおり。 ・塗り絵に対する満足度 とても満足…9名 やや満足…4名 ・塗り絵教室に対する満足度 とても満足…5名 やや満足…7名 どちらともいえない…1名 入居者から、「塗り絵が今の一番の楽しみ」「生きがいになっている」や「コロナ禍で大変だけど、コロナに少し感謝している。塗り絵に出会え、友人もたくさんできたから」などの声を聞いた。 また、塗り絵教室は大好評で今では大阪〈ゆうゆうの里〉でキャンセル待ちを含め参加希望者が一番多い人気行事となった。		
考察	アンケートの結果から、新型コロナウイルスの影響で心身共に疲弊している中、施設内でご入居者にとって新たな楽しみを見出すことができた。 加えて、個人的な楽しみにとどまらず、大阪市内の介護福祉士養成校と連携し、オンラインを通して世代を超えた新たなつながりを作ることができた。 今回のつながるぬりえを踏まえ、コロナ禍であっても楽しみを見出せることがわかった。今後も入居者にコロナ禍でも彩りのある生活を送っていただけるよう、様々な行事やイベントを企画したいと考えている。		
アピールポイント 伝えたいこと	塗り絵は幼稚や子供っぽい、認知症のレクリエーションの一環だと思っているかたも多いと思う。 現在、塗り絵を楽しんでいるご入居者のほとんどが皆さんと同じ考えを持っていたが、今では時間を忘れるほど夢中になっている。		